

## 四国遍路絵図に関する一考察

### A thought of Some Historical Maps of the Shikoku Pilgrimage

松尾剛次

MATSUO, Kenji

キーワード：四国遍路絵図

Keywords : Shikoku Pilgrim maps

#### はじめに

四国遍路はブームというより、ますます人気を博し、毎年多くの人々が遍路に旅立っている。一方では、世俗化が急速に進んでいるにもかかわらず、多くの人が遍路に旅立つ現象は大いに宗教学的な関心を喚び起こさせる。とくに、八十八もの札所がいつ、いかにして成立したのかという謎こそ四国遍路理解の鍵となる疑問といえよう。

別稿で<sup>1</sup>四国遍路絵図41例を紹介し、その分析を通じて四国遍路の成立について考察した。しかし、四国遍路絵図の探訪は必ずしも十分とはいえなかった。そこで、2003年5月から7月にかけて、徳島県立博物館、同文書館、香川県立歴史文化博物館、鎌田共済会郷土博物館、丸亀市立資料館などの四国遍路絵図調査を行った<sup>2</sup>。その結果、新たに21例もの四国遍路絵図を見いだした。本稿のねらいは、そうした四国遍路絵図の中で重要な絵図を紹介し、考察を加えることにある。

#### 第1章 徳島県立博物館所蔵四国遍路絵図

徳島県立博物館には四例の遍路絵図がある

(表No.5、17、23、25)。ここで特にとりあげたいのは、徳島県立博物館所蔵番号HSK000397の絵図(以下、HSK000397と略す)と同HSK000398の絵図(HSK000398)である。

まず、別稿で四国遍路絵図には、宝暦13(1762)年春の「四国偏礼絵図」を初めとして、A～Fの六つの形式のあることを指摘した<sup>3</sup>。HSK000397とHSK000398は、A型の変形であるA'型である。

A型の典型例は宝暦13(1762)年正月28日付の「四国偏礼絵図」(四国遍路図表、No.1-3)である。表No.1の神戸市立博物館蔵の絵図を例に挙げれば、絵図の大きさは縦×横、58.3×93.0cmである。宝暦13年春の刊記を有し、四国遍路図のなかで、もっとも古く、かつ、おそらくは最初に作成された四国遍路図と考えられている<sup>4</sup>。

表No.1の神戸市立博物館蔵の絵図を例にA型絵図の特徴を指摘すると以下ようになる<sup>5</sup>。

- (1) 方位、縮尺、地形にあまりこだわらず、特に、南が上に描かれている。
- (2) 絵図の中央に、巻物を開いた枠取りの中に、大日如来像と椅子に座った弘法大師像を描き、その左側に四国遍路に関する高野

山の前寺務弘範による密教的意味付けが書かれている。

- (3) 札所（楯円で囲む）はもちろんのこと、隣接する札所との位置関係・距離数、途中の城下（口で表現）、番所（・）、国境（▲）、山坂峠（∧）、村里名（°）、川などが書かれている。
- (4) 札所の中には、取星寺、星谷、月山、満願寺、篠山など八十八所ではないもの、7つが記されている、
- (5) 本図の右下隅には、大坂などからの道のりが記されている。
- (6) 右上隅には、「天灯笼灯」ほかの「アシズリ七不思議」などが記されている。
- (7) 本図の左下隅の注記から、著者は但馬（兵庫県）の細田周英で、版元は大坂心齋橋筋順慶町の柏原屋清右衛門、同与一、田原屋平兵衛であることがわかる。
- (8) 左上隅には「四国へんろ道するべ 小本一冊」とある後に、「四国へんろ道するべ」の紹介が書かれている。

以上のような特徴があるが、他の多くの絵図で(1)、(2)、(3)は、ほぼ踏襲される。特徴のうち、(2)に関して言えば、巻物を開いた枠取りや大日如来像は省略されても、絵図の中央に書かれた四国遍路に関する高野山の前寺務弘範の密教的意味付けは、後の、多くの遍路図において、ほぼ継承され記載された。それゆえ、四国遍路図の内、(1)、(2)、(3)のような特徴、とくに(2)の特徴を持つ絵図をA型と呼ぶ。

そして、巻物を開いた様式の枠取りや大日如来像は省略されても、西を上にして弘法大師座像が描かれ、かつ、絵図の中央に書かれた四国遍路に関する密教的意味付けのあるも

のは、A型の変形としてA'型とした。また、北を上を描いたものはA''型とする。

さて、HSK000397とHSK000398は、以上の意味で、A型の変形であるA'型であるが、まず、HSK000397から紹介する。

#### HSK000397

HSK000397には、版元の記載はないが、木版刷である。たくさん刷られたのであろう。大きさは54.5×38.8（折り畳むと19.4×13.9）cm。

真ん中の密教的意味づけの部分は、A型よりも相当略されているが、漢字とひらがなで書かれ、西を上にして

「それ四国八大悲胎蔵の四重の円壇に擬しあまたの仏閣八十界皆成のまंतरを示す衆生痴暗にして此理をしらす今遍礼の功德によつて合蓮開けて仏光現し再び八葉の華臺に坐し無明のやみはれて本仏を覚る本修ならへしめすかゆへにさらに八ヶの仏閣をくわへ八十八と定めたまふことの也」と記されている。

#### HSK000398

HSK000398は、HSK000397よりも紙もよく、大きさは縦53.1×42.4（折り畳むと21.2×13.3）cmである。また、木版刷りで、板元も記されている。すなわち、左上隅に

「伊与松山高井  
四十八番西林寺  
森下表具師板」

とある。伊予松山（現、愛媛県松山市）高井の四十八番札所西林寺の森下表具師板ということがわかる。

先述のHSK000397のような遍路絵図は、このHSK000398のような四国偏礼絵図をも

とにしたとも考えられる。

しかし、本絵図では松山から安芸宮島までを「十八り」とするのに対してHSK000397の四国遍路絵図では「二十五り」とするなどの相違がある。

また、真ん中の密教的意味づけの部分は次のように漢字とカタカナで記されている。

夫四國遍路ノ密意ヲ云ハバ四國ハ大悲胎藏ノ四重円壇ニ擬シ、数多ノ仏閣八十界皆成ノ曼荼羅ヲ示ス、所謂四重ノ曼荼羅八十界其身平等ニ各々八葉開敷ノ蓮台ニ坐シ、光明常ニ法界ヲ照ス、本ヨリ不生ノ仏ナレ八十界皆成曼陀羅ト名ツク、仍テ八十ノ仏閣是レニ況ス、衆生痴暗ニシテ此ノ理ヲ知ラス、蓮華萎ンテ、合蓮ト成リ、仏光カクレテ闇夜ニ迷フ、今遍路ノ功德ニ依テ合蓮開ケテ、仏光現シ、再ビ八葉ノ華臺ニ坐シ、無明ノ闇晴テ、本佛ヲ覚ル、本修並ベス力故ニ、更ラニ八箇ノ仏閣ヲ加ヘ、八十八ト定メ給フ、是レ併ナガラ高祖大師ノ神変加持衆生頓覺ノ直道ナリ、各早ク円壇ニ入テ、自己ノ心蓮ヲ開覺シ、自心ノ本佛ヲ證知シ玉ヘト云爾也

以上から、HSK000397のような絵図は、HSK000398のような絵図を基本に、それを変形して成立したと推測される。

## 第2章 徳島県立文書館所蔵酒井家文書の「四国遍路絵図」と鎌田共済会郷土博物館所蔵「四国遍路絵図」

次に注目するのは、徳島県立文書館所蔵酒井家文書の「四国遍路絵図」で、所蔵番号は「サカイ00265」（以下、「サカイ00265」）である。徳島県立文書館では2例の四国遍路絵図

がある(No.18, 41)が、とくに、「サカイ00265」は大いに注目に値する。

というのも、「サカイ00265」には、注記があって、それにより作成年代がわかるからである。「サカイ00265」はA'型の遍路絵図であるが、A'型で制作年代がわかるものがないに貴重である。

さて、「サカイ00265」の大きさは49.0×41.0cmである。図のように、A'型の四国遍路絵図であるが、枠外に「天保三年辰四月廿日求之 堺屋弥蔵」と注記があり、天保三(1843)年に堺屋弥蔵(1808-1892)が購入したものであることがわかる。堺屋弥蔵は、徳島県美馬郡半田町の街道筋で雑貨を商う商人であった<sup>6</sup>。

その年月日は、購入年月日であるが、当時、遍路絵図は貴重品というより、実用品であり、購入年月日と製作年月日とは1年以内の誤差であろう。それゆえ、本絵図は、A'型で年月日がおおよそわかる唯一のものである。すなわち、1843年頃のものである。A'型が19世紀前半には制作されていたことがわかり興味ぶかい。

次に注目したいのは、香川県坂出市にある鎌田共済会郷土博物館所蔵「四国遍路絵図」である。鎌田共済会郷土博物館所蔵の所蔵番号dc185.186の絵図は注目に値する。というのも、従来、未知の型式の四国遍路絵図だからである。大きさは縦・横33.3×43.2cmである。

さて、本絵図は、一見すると、C型の変形と思えるが弘法大師座像がないという特徴がある。


C型は、A'型とよく似た四国の絵に、札所(札所間の里程)、道、国境、城下を描いてい

るが、その特徴は以下のような点にある<sup>7</sup>。

中央部に、東を上にして、弘法大師の椅子に座った姿を描くも、A型のような四国遍路に関する高野山の前寺務弘範の密教的意味付けは書かれていない。その代わりに、弘法大師像の下に、「阿波 二拾三ヶ所、五十七里半餘、土佐 拾六ヶ所、九十壹里半、伊予 二拾六ヶ所 百十九里半、讃岐 二拾三ヶ所 三十六里半餘、四箇国道法 三百四里半餘」と各国ごとに札所の数と道のり数を記し、最後に四国併せての道のり数を合計して示す。

中央上部に「海上道法、大坂より 阿波 徳島へ 三十八里、さぬき丸亀 五十里 紀州かた浦より 阿州むやへ 十五里 播州明石より 阿州一ばん札へ 廿里、しまつより 讃洲 高松へ 廿七里。丸亀へ 廿八里 下村より 丸亀へ五里 九州豊後 佐か関より 与州八わた浜え 廿里」と、海上の道のりを記す。

とくに、(1)のような特徴を持つ四国遍路図をC型と呼ぶが、四国の図がA'型とよくにており、A'型をモデルとしたと考えられる。

dc185.186は、中央部に「 札所の印」といった凡例とともに、「あわ二十三所 五十七り半、とさ 十六所 九十一り半、いよ 二十六所 百十一り半 さぬき 二十三所 三十六り」と各国ごとに札所の数と道のり数を記している。

それゆえ、本絵図は、C型の変形といえるが、C型の重要な特徴といえる「中央部に、東を上にして、弘法大師の椅子に座った姿を描く」という点を欠いている。

すなわち、それは四国遍路が弘法大師空海

の聖蹟巡礼であるという意識を端的に表す特徴であるが、その特徴を欠くという点に、dc185・186絵図の特徴がある。もはや、四国遍路が弘法大師空海の聖蹟巡礼というよりも、旅行の側面が強くなり、遍路絵図が旅行の地図という性格を強くもちだしたことの現れであろう。その意味で、新たにG型をたてるべきであろう。

## おわりに

「はじめに」で述べたように2003年5月から7月にかけて、徳島県立博物館、同文書館、香川県立歴史文化博物館、鎌田共済会郷土博物館、丸亀市立資料館などの四国遍路絵図調査を行った。その結果、新たに21点の「四国遍路絵図」を知ることができた。本稿では、そのうち、徳島県立博物館所蔵四国遍路絵図と徳島県立文書館所蔵酒井家文書「四国遍路絵図」と鎌田共済会郷土博物館所蔵「四国遍路絵図」に注目した。

その結果、以下の知見を得た。従来、A'型としてきたものに二種類あり、A'をさらに二つに区分すべきではないか。たとえば、HSK000398はA'とし、HSK000397はA''とすべきだと考えられる。HSK000397はHSK000398をモデルとし、簡略にしたものといえるが、「あきのみやじまへ舟路十八り」ではなく、「二十五り」とするなど、相違点もある。とすれば、A' A'' A'''の三つあることになる。今後の史料発見を待って検討したい。また、A''型はA'型より新しい。

また、徳島県立文書館所蔵酒井家文書「四国遍路絵図」(サカイ00265)は、A'型であるが、枠外に「天保三年辰四月廿日求之 堺屋弥蔵」とある。その文言から、天保三(1843)

年に堺屋弥蔵が購入したものということがわかる。それは、A'型で制作年が推測できる唯一のものである。

さらに、鎌田共済会所蔵dc185・186のように一見、C型の変形と思えるが弘法大師座像がないものがあつた。それにより、四国遍路絵図の型式にG型をたてるべきと考える。

## 註

- 1 拙稿「四国遍路図考」『山形大学歴史・地理・人類学論集』2号、2001、「四国遍路八十八札所の成立—四国遍路絵図を手がかりとして」『宗教研究』333、2002。
- 2 とくに、徳島県立博物館では学芸員の山川浩實氏に、徳島県立文書館では金原祐樹氏にお世話になった。

- 3 前掲拙稿「四国遍路八十八札所の成立」〈前註(1)〉111頁。
- 4 前掲拙稿「四国遍路八十八札所の成立」〈前註(1)〉112頁。
- 5 A型絵図については、前掲拙稿「四国遍路八十八札所の成立」〈前註(1)〉112-114頁参照。
- 6 『堺屋弥蔵 人と暮らし—江戸時代の庶民文化』(徳島県立文書館、平成9年)。
- 7 前掲拙稿「四国遍路八十八札所の成立」〈前註(1)〉115・116頁参照。

## 追記

本研究は、平成15年度科学研究費補助金「四国八十八札所遍路の思想史的研究」の科研費を使った研究成果である。



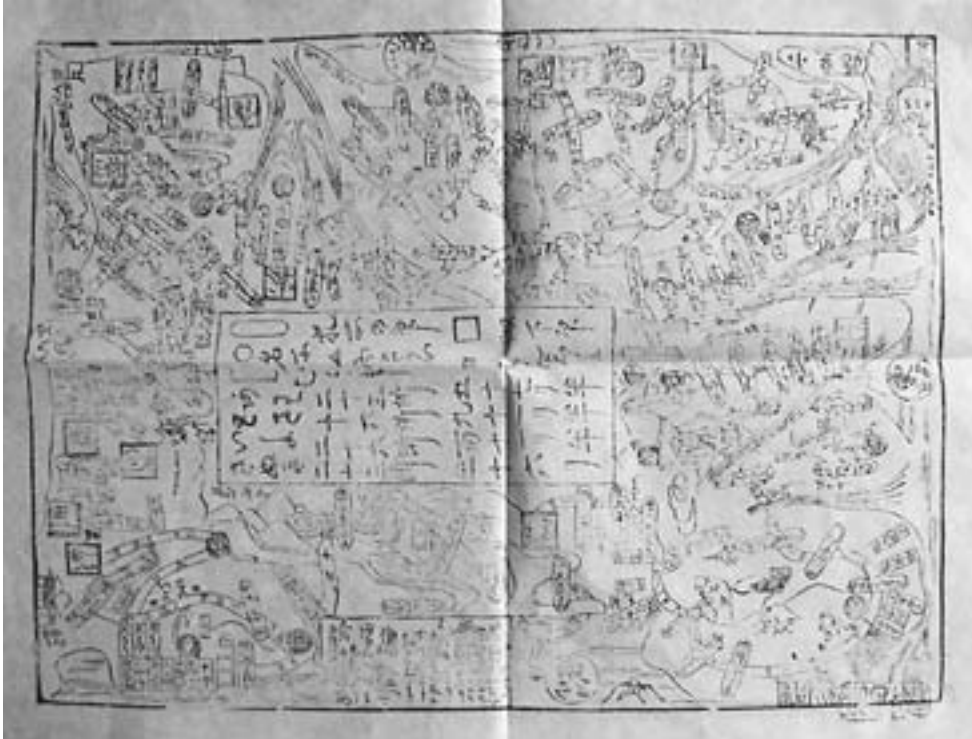
〈HSK000397〉



〈HSK000398〉



〈サカイ00265〉



〈dc185. 186〉



〈C型絵図（表No.30）〉

四 国 遍 路 図 考

No.	名 称	作成年、板元、刷	形 式	所 蔵 者	大 き さ	参 考
1	四国偏礼絵図	宝暦13 (1763) 年春、大坂柏原屋清右衛門、同与一、田原屋平兵衛、木版墨刷	A	神戸市立博物館179	58.3*93.0	
2	四国偏礼絵図	宝暦13 (1763) 年春、大坂柏原屋清右衛門、同与一、田原屋平兵衛、木版墨刷	A	愛媛県立歴史博物館	59.7*95.0	
3	四国偏礼絵図	宝暦13 (1763) 年春、大坂柏原屋清右衛門、同与一、田原屋平兵衛、木版墨刷	A	香川県歴史博物館B9700397	60.2*95.0	大坂柏原屋清右衛門、同与一、田原屋平兵衛、四国へんろ道しるべノ部分ハ張紙
4	四国偏礼 (絵図)	大坂柏原屋清右衛門、同与一、木版筆彩	A'	岩村武勇	40.6*53.4	
5	四国偏礼 (絵図)	讃州丸亀通町天満屋	A'	徳島県立博物館	54.7*43.5	海上道程、大坂・紀州・摂津・備前・九州から
6	四国寺社名勝八十八番	青々堂、木版色刷	B	岩村武勇	35.8*67.8	
7	四国寺社名勝八十八番	青々堂、木版色刷	B	神戸市立博物館193	35.8*66.4	
8	四国八十八箇所順拝略図	木版色刷	B'	愛媛県立歴史博物館	35.3*47.6	
9	四国八十八箇所順拝略図	木版色刷	B'	岩村武勇	35.8*49.0	
10	四国八十八箇所順拝略図	木版墨刷	B'	神戸市立博物館188	37.4*46.6	
11	四国八十八箇所順拝略図	木版色刷	B'	神戸市立博物館189	35.6*48.6	
12	四国八十八箇所順拝略図	木版墨刷	B''	神戸市立博物館194	26.6*39.6	
13	象頭山參詣道四国寺社八十八番	金比羅小坂美玉堂、木版色刷	B'	岩村武勇	35.6*47.8	
14	象頭山參詣道四国寺社八十八番	金比羅小坂美玉堂、木版色刷	B'	神戸市立博物館191	34.6*46.8	
15	象頭山參詣道四国寺社八十八番	金比羅小坂美玉堂、木版色刷	B'	愛媛県立歴史博物館	35.2*47.5	
16	四国偏礼 (絵図)	木版色刷	A'	岩村武勇	38.2*53.5	
17	四国偏礼 (絵図)	木版墨刷	A'	徳島県立博物館HSK000398	53.1*42.4	左上隅に「伊与松山高井四十八番西林寺森下表具師版」トアリ
18	四国偏礼 (絵図)	木版墨刷	A'	徳島県立文書館所蔵酒井家文書サカイ00265	49.0*41.0	天保三 (1843) 年に堺屋弥蔵 (1808-1892) が購入したもの。
19	四国偏礼 (絵図)	彫刻備前和気郡香登立蔵直貫、木版墨刷	A'	神戸市立博物館183	51.2*35.6	



四 国 遍 路 図

No.	名 称	作成年、板元、刷	形 式	所 蔵 者	大 き さ	参 考
20	四国偏礼 (絵図)	彫刻備前和気郡香登立蔵直貫、木版墨刷	A'	香川県歴史博物館B940156	56.4*40.1	右下二「道乗新根仏師是非、其後之新通知者委敷印 國久版」
21	四国偏礼 (絵図)	木版色刷	A'	香川県歴史博物館B9600484	52.1*41.6	香川県歴史博物館B940156より詳しい。
22	四国偏礼 (絵図)	木版彩色	A'	ライデン大学図書館	43.5*52.5	
23	四国偏礼 (絵図)	木版墨刷	A'	徳島県立博物館HSK000397	54.5*38.8	
24	四国偏礼 (絵図)	大坂書林心齋橋南へ五丁目佐々井治郎右衛門版、阿州十八番礼所隣弘所釈迦庵、木版墨刷	A'	神戸市立博物館182	37.6*56.4	
25	四国偏礼絵図	文化4 (1807)年、大坂佐々井治郎右衛門、木版墨刷	A'	徳島県立博物館HSK000401	63.2*99.0	縦22.6×横16の折本の状態で持ち運べるようになっている。
26	四国偏礼絵図	文化4 (1807)年、大坂佐々井治郎右衛門、木版墨刷	A	岩村武勇	63.4*99.0	
27	四国偏礼絵図	文化4 (1807)年、大坂佐々井治郎右衛門、木版墨刷	A	神戸市立博物館180	62.6*98.0	
28	四国偏礼絵図	文化4 (1807)年、大坂佐々井治郎右衛門、木版墨刷	A	ライデン大学図書館	63.0*98.0	
29	四国順拝霊場一覧	木版墨刷	A''	神戸市立博物館195	35.5*47.4	
30	(四国八十八箇所絵図)	木版色刷	C(A')	岩村武勇	35.0*50.2	
31	四国八拾八ヶ所道案内記百万遍開元	板所谷一、木版墨刷	A'	岩村武勇	48.9*52.9	
32	四国八拾八ヶ所道案内記百万遍開元	板所谷一、木版墨刷	A'	香川県歴史博物館B980033	52.8*46.7	裏二信州水内郡栗田村油屋ノ印アJ)
33	四国寺社名勝八十八番	峰右衛門、木版墨刷	B	岩村武勇	36.0*67.0	
34	四国寺社名勝八十八番	峰右衛門、木版色刷	B	香川県歴史博物館B950296	35.2*65.8	海青ク彩色
35	四国寺社名勝八十八番	青々堂、木版色刷	B	愛媛県立歴史博物館	36.2*67.8	
36	丸亀ヨリ象頭山四十八番国寺社名勝	作寿堂、木版墨刷	B	岩村武勇	35.8*47.9	
37	南海道四国八十八ヶ所順拝図	木版墨刷	D(B')	岩村武勇	34.5*47.2	
38	四国八十八箇所順拝略図	木版墨刷	B'	岩村武勇	33.5*47.0	
39	四国八十八箇所順拝略図	木版彩色	B'	香川県歴史博物館B950137	34.8*48.0	
40	四国八十八箇所順拝略図	木版墨刷	B'	香川県歴史博物館B9600485	34.7*48.4	

四 国 遍 路 圖 說

No.	名 称	作成年、板元、刷	形式	所 蔵 者	大 き さ	参 考
41	四国八十八箇所順拝略図	木版彩色	B'	徳島県立文書館所蔵酒井家 文書サカ101583	37.0*47.0	明治5年
42	四国偏礼図	木版墨刷	D	愛媛県立歴史博物館	38.0*53.8	國久版
43	四国八拾八所偏礼之図	木版墨刷	D(A')	岩村武勇	35.3*52.2	
44	四国順拝御土産絵図	木版墨刷	E(A')	岩村武勇	36.4*48.2	
45	四国順拝御土産絵図	木版墨刷	E(A')	神戸市立博物館185	35.8*48.8	
46	四国順拝御土産絵図	木版墨刷	E(A')	神戸市立博物館186	36.0*47.4	
47	四国順拝御土産絵図	木版墨刷	E(A')	神戸市立博物館187	36.8*51.4	
48	四国偏礼(絵図)	木版墨刷	D(A')	神戸市立博物館184	42.8*53.6	
49	四国偏礼(絵図)	明石堂茶堂、木版墨刷	A'	岩村武勇	42.8*53.8	
50	四国偏礼(絵図)	伊予宇和島領虎屋喜代助、木 版墨刷	A'	神戸市立博物館	40.0*53.0	
51	四国偏礼(絵図)	木版墨刷	A'	岩村武勇	38.0*53.0	
52	四国偏礼(絵図)	木版墨刷	A'	岩村武勇	42.7*53.9	
53	四国偏礼(絵図)	木版墨刷	A'	岩村武勇	42.2*55.8	
54	四国偏礼(絵図)	木版墨刷	A'	香川県歴史博物館B9900879	51.7*38.4	横切断サル
55	四国偏礼(絵図)	木版墨刷	A'	香川県歴史博物館B9700118	52.5*40.8	
56	(四国八十八箇所絵図)	木版墨刷	C(A')	岩村武勇	33.4*43.7	
57	(四国八十八箇所絵図)	四十三番札所、木版墨刷	E(A')	岩村武勇	36.8*48.3	
58	(四国八十八箇所絵図)	木版墨刷	E(A')	岩村武勇	37.8*48.5	
59	四国八拾八ヶ所並名所古跡案内 版墨刷	版元讃州阿野郡南中西氏、木 版墨刷	F(A')	神戸市立博物館181	38.2*51.4	
60	四国八十八箇所順拝略図	讃岐金比羅沾哉堂刊「金比羅 案内記」口絵、木版色刷	B'	岩村武勇	19.5*27.7	
61	四国八十八箇所順拝略図	大坂淀屋橋南詰河内屋甚七、 木版色刷	B'	神戸市立博物館190	32.0*42.8	
62	(四国八十八箇所順拝略図)	木版墨刷	G	鎌田共済会dc185,186	33.3*43.2	

注記：型式欄のA～Fについては本文を参照。